

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程用)

教科	数学	学年	2	年	時間数	105	時間
----	----	----	---	---	-----	-----	----

教科書名	未来へひろがる数学2 未来へひろがる数学3	出版社名	啓林館
------	-----------------------	------	-----

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	知	思	主	
一 学 期	4	2章 連立方程式 1節 連立方程式	1 連立方程式とその解	○	◎	○	<p style="text-align: center;">授 業 の 概 要</p> 連立二元一次方程式を用いて、文章題の解き方を学習します。 ともなってしまう2つの数量の関係について調べます。 図形の性質の調べ方や、あることが正しいことを示す方法を学びます。 図形についてのいろいろな性質を見つけて、それを証明していきます。 ものことの起こりやすさについて学びます。 データを活用して問題を解決する方法を学びます。
		2節 連立方程式の利用	1 連立方程式の利用	○	◎	○	
	5	3章 一次関数 1節 一次関数とグラフ	1 一次関数 2 一次関数の値の変化	◎	○	◎	
		中間考査(5/14～5/15)	3 一次関数のグラフ 4 一次関数の式を求めること	◎	○	○	
	6	2節 一次関数と方程式	1 方程式とグラフ	◎	○	○	
		3節 一次関数の利用	2 連立方程式とグラフ	◎	○	○	
		4章 図形の調べ方 1節 平行と合同	1 一次関数の利用	○	◎	○	
		1 角と平行線 2 多角形の角	◎	○	○		
	7	期末考査3年(6/26～7/2) 期末考査2年(6/27～7/2)		◎	◎	○	
		2節 証明	1 証明とそのしくみ 2 証明の進め方	◎	○	○	
8	夏季休業日(7/20～8/25)					・連立二元一次方程式について見直し、それを用いて考察することができる。 ・事象の中から一次関数を見直し、用いることができる。 ・図形の性質を調べる上で基礎となる見方や基本的性質を、観察、操作や実験などの活動を通して明らかにし、論証の意義と推論の進め方を理解することができる。 ・確率の意味を理解し、確率を求めることができる。 ・箱ひげ図について理解するとともに、データを正しく読み取り、それを使って問題を解決することができる。 ・数の概念の理解をいっそう深めるとともに、数を用いてものごとを広く、深く考察、処理することができる。	
二 学 期	9	5章 図形の性質と証明 1節 三角形	1 二等辺三角形	◎	○	○	<p style="text-align: center;">評 価 の 観 点</p> 知識・技能 数学的活動を通して、数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
		2節 四角形	2 直角三角形の合同 1 平行四辺形の性質 2 平行四辺形になるための条件 3 いろいろな四角形 4 平行線と面積 5 四角形の性質の利用	◎	○	○	
	中間考査(10/10～10/11)		◎	◎	◎		
	10	6章 場合の数と確率	1 確率の求め方	◎	○	○	
		1節 場合の数と確率	2 いろいろな確率 3 確率の利用 3 確率の利用	○	◎	○	
	11	7章 箱ひげ図とデータの活用	1 箱ひげ図	◎	○	○	
1節 箱ひげ図		2 データを活用して、問題解決をしよう	○	◎	○		
12	期末考査3年(11/27～12/3) 期末考査2年(11/28～12/3)		◎	◎			
	1章 式の展開と因数分解	1 式の乗法、除法	◎	○	○		
冬 季	1節 式の展開と因数分解	2 乗法の公式	◎	○	○		
	冬季休業日(12/21～1/7)					<p style="text-align: center;">評 価 方 法</p> 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。	
三 学 期	1	2節 式の計算の利用	3 因数分解 1 式の計算の利用	○	◎	○	
		1 式の計算の利用	1 式の計算の利用	○	◎	○	
	2	2章 平方根 1節 平方根	1 平方根	◎	○	◎	
		2 平方根の値	2 平方根の値 3 有理数と無理数 4 真の値と近似値	◎	○	○	
3	学年末考査3年(2/21～2/28) 学年末考査2年(2/25～2/28)		◎	◎			
	2節 根号をふくむ式の計算	1 根号をふくむ式の乗法、除法 2 根号をふくむ式の計算 2 根号をふくむ式の計算	◎	○	◎		
			◎	◎		備 考	

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程用)

教科	数学	学年	3	年	時間数	140	時間
----	----	----	---	---	-----	-----	----

教科書名	未来へひろがる数学3 新編 数学I 新編 数学A	出版社名	啓林館 数研出版
------	--------------------------	------	----------

学期	月	指導計画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	知	思	主	
一 学 期	4	2章 平方根 1節 平方根	1 平方根 2 平方根の値 3 有理数と無理数	○	○	◎	<p style="text-align: center;">授業の概要</p> <p>平方根の性質を学び、計算方法を学習します。二次方程式の解の求め方、文章問題の解き方を学習します。 具体的な事象の中から、表・グラフ・式を使って、関数$y=ax^2$について理解します。 三角形の相似条件を学び、相似の証明問題や線分の長さを相似比や三平方の定理を利用して求めていきます。 「数学I」は少し複雑な式の見方や展開、因数分解の仕方を学習します。 「数学A」は図形の様々な性質を学び、それらを使って図形を数学的に考察する方法を学びます。</p> <p style="text-align: center;">学習の到達目標</p> <p>・平方根の計算を用い、より広い範囲での計算をすることができる。 ・二次方程式を用いて実際の問題を解決したり、考察したりすることができる。 ・2次関数について、表・式・グラフ相互に関連付けることができる。また、2次関数を用いて具体的な事象をとらえ、説明できる。 ・平面や空間の図形の性質について理解を深め、様々な図形を論理的に考察し処理することができる。 ・少し複雑な式の計算や因数分解ができる。</p>
		2節 根号をふくむ式の計算	4 真の値の近似値 1 根号をふくむ式の乗法、除法	◎	○	○	
		3節 平方根の利用	2 根号をふくむ式の計算	◎	○	○	
	5	3章 二次方程式 1節 二次方程式	1 平方根の利用	○	◎	○	
		1 二次方程式とその解き方 2 二次方程式の解の公式	1 二次方程式と因数分解	◎	○	○	
	6	中間考査(5/14～5/15)	1 二次方程式の利用	◎	◎	○	
		2節 二次方程式の利用	1 関数 $y=ax^2$	○	◎	○	
4章 関数 $y=ax^2$ 1節 関数とグラフ		2 関数 $y=ax^2$ のグラフ	○	○	◎		
7	2節 関数 $y=ax^2$ の値の変化	1 関数 $y=ax^2$ の値の増減と変域 2 関数 $y=ax^2$ の変化の割合	◎	○	○		
	期末考査3年(6/26～7/2) 期末考査2年(6/27～7/2)		◎	◎	○		
夏 季	3節 いろいろな事象と関数	1 $y=ax^2$ の利用 2 いろいろな関数	○	◎	○		
	5章 図形と相似 1節 図形と相似	1 相似な図形 2 三角形の相似条件	○	○	◎		
二 学 期	9	夏季休業日(7/20～8/25)					
		3 三角形の相似条件と証明	1 平行線と線分の比	○	◎	○	
	10	2節 平行線と線分の比	2 中点連結定理	◎	○	○	
		3節 相似な図形の条件	1 相似な図形の面積 2 相似な立体の表面積・体積	○	◎	○	
	11	4節 相似の利用	1 相似の利用	○	◎	○	
		6章 円の性質 1節 円周角と中心角	1 円周角と中心角	◎	○	○	
	12	中間考査(10/10～10/11)		◎	◎	○	
2節 円の性質の利用		2 円周角の定理の逆	○	○	◎		
冬 季	1	7章 三平方の定理 1節 直角三角形の3辺の関係	1 三平方の定理	◎	○	○	
		2節 三平方の定理の利用	1 三平方の定理の利用	○	◎	○	
三 学 期	2	8章 標本調査とデータの活用	1 標本調査の方法 2 母集団と標本の関係	○	○	◎	
		1節 標本調査	3 データを活用して、問題を解決しよう	○	○	◎	
3	3	期末考査3年(11/27～12/3) 期末考査2年(11/28～12/3)		◎	◎	○	
		1 三角形の辺の比	2 三角形の外心・内心・重心	◎	○	○	
備 考	3	冬季休業日(12/21～1/7)					
		3 チェバの定理・メネラウスの定理	4 円に内接する四角形	○	◎	○	
備 考	3	5 円と直線 6 2つの円	7 作図	◎	○	○	
		8 直線と平面	9 空間図形と多面体	○	○	◎	
備 考	3	学年末考査3年(2/21～2/28) 学年末考査2年(2/25～2/28)		◎	◎	○	
		1 多項式の加法と減法 2 多項式の乗法	3 因数分解	◎	○	○	
備 考	3	4 実数 5 根号を含む式の計算	4 実数 5 根号を含む式の計算	◎	◎	○	

シ ラ バ ス
令和6年度

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	数学	科目	数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学A	学年	4 年	類型	共通	単位数	3 1 2	単位
----	----	----	-------------------	----	-----	----	----	-----	-------------	----

教科書名	新編 数学Ⅰ	新編 数学Ⅱ	新編 数学A	出版社名	数研出版
------	--------	--------	--------	------	------

学期	月	指導計画			評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単元	内容		知	思	主		
一 学 期	4	数学Ⅰ 第1章 数と式 第2節 実数	4 実数	5 根号を含む式の計算		◎	○	○	授業の概要 「数学Ⅰ」は、集合についての基本的な事項を理解し、命題などの考察を通して、論理的な思考力を伸ばします。また、前期課程で学んだ数学を踏まえて、更に発展させ、2次関数、図形と計量という高校数学の基礎・基本の分野に加えて、データの分析という分野を学習します。前期課程の数学と比べると内容が深くなっていますので、課題の量も多くなります。 「数学A」は、具体的な事象を数学的に処理するための基礎を身に付ける科目です。整数の性質や場合の数と確率の分野を学習します。 「数学Ⅱ」は、「数学Ⅰ」、「数学A」より進んだ内容として、方程式・式と証明を学習します。 教科書レベルでは入試に対応できませんから、問題集「クリアー数学(数研出版)」を併用しながら、模試問題なども解いていきます。
		第3節 1次不等式	6 不等式の性質	7 1次不等式		◎	○	○	
	5	数学Ⅰ 第2章 集合と命題	1 集合	2 命題と条件		○	◎	◎	
		中間考査(5/14～5/17)				◎	○	○	
	6	数学Ⅰ 第3章 2次関数	1 関数とグラフ	2 命題とその逆・対偶・裏		○	◎	◎	
		第1節 2次関数とグラフ	2 2次関数のグラフ	4 命題と証明		◎	○	○	
		第2節 2次関数の値の変化	3 2次関数の最大・最小			◎	◎	○	
4 2次関数の決定					◎	○	○		
7	期末考査(6/26～7/2)				◎	○	○		
	第3節 2次方程式と2次不等式	5 2次方程式	6 2次関数のグラフとx軸の位置関係		◎	○	○		
夏 季	8	夏季休業日(7/20～8/25)							
		7 2次不等式			◎	◎	○		
二 学 期	9	数学A 第1章 場合の数と確率	1 集合の要素の個数	2 場合の数		◎	○	○	
		第1節 場合の数	3 順列	4 組合せ		◎	○	○	
	10	第2節 確率	5 事象と確率	6 確率の基本的性質		◎	○	○	
		中間考査5年(10/1～10/4)	7 独立な試行と確率			◎	○	○	
	11	中間考査4・6年(10/8～10/11)	8 条件付き確率			◎	○	○	
		9 期待値			◎	◎	○		
		数学Ⅰ 第4章 図形と計量 第1節 三角比	1 三角比	2 三角比の相互関係	3 三角比の拡張	○	◎	◎	
12	第2節 三角形への応用	4 正弦定理	5 余弦定理		◎	○	○		
	6 正弦定理と余弦定理の応用	7 三角形の面積	8 空間図形への応用		◎	◎	○		
冬 季	12	期末考査(11/27～12/3)				◎	○	○	
		数学Ⅰ 第5章 データの分析	1 データの整理	2 データの代表値		○	◎	◎	
三 学 期	1	冬季休業日(12/21～1/7)							
		数学A 第3章 数学と人間活動	5 2つの変数の間の関係	6 仮説検定の考え方		○	◎	◎	
	2	1 約数と倍数	2 素数と素因数分解		○	◎	◎		
		3 最大公約数・最小公倍数	4 整数の割り算		○	◎	◎		
	3	5 ユークリッドの互除法	6 1次不定方程式		◎	○	○		
		7 記数法	8 座標の考え方		○	◎	◎		
		9 ゲーム・パズルの中の数学	2 二項定理		◎	○	○		
3	数学Ⅱ 第1章 式と証明	1 3次式の展開と因数分解	2 二項定理		◎	◎	○		
	学年末考査4・5年(2/21～2/28)				◎	◎	○		
3	第1節 式と計算	3 多項式の割り算	4 分数式とその計算		◎	○	○		
	第2節 等式・不等式の証明	5 恒等式	6 等式の証明		◎	◎	○		
		7 不等式の証明			◎	◎	○		

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	数学	科目	数学Ⅱ 数学B	学年	5 年	類型	文科系	単位数	3 2	単位
----	----	----	------------	----	-----	----	-----	-----	--------	----

教科書名	新編 数学Ⅱ 新編 数学B	出版社名	数研出版
------	---------------	------	------

学期	月	指導計画			評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容		知	思	主	
一 学 期	4	第3章 図形と方程式	1 直線上の点	2 平面上の点	○	◎	◎	<p style="text-align: center;">授 業 の 概 要</p> <p>「数学Ⅱ」は、式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角・指数・対数関数、微分と積分について、「数学Ⅰ」で学んだ基礎・基本をもとに、より深い内容を学習していきます。</p> <p>「数学B」は、「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」より進んだ内容として、数列と統計的な推測について学習していきます。</p> <p>教科書レベルでは入試に対応できませんから、問題集「クリアー数学Ⅱ+B(数研出版)」を活用しつつ、模試問題なども解いていきます。</p> <p style="text-align: center;">学 習 の 到 達 目 標</p> <p>・基本的な図形の性質を理解し、問題解決に活用できる。</p> <p>・様々な関数の特徴をグラフで描いて捉えることができる。</p> <p>・微分・積分の考え方により、関数の値の変化や面積を求めることができる。</p> <p>・数列の規則性を把握できる。</p> <p>・数学的帰納法を用いて証明することができる。</p> <p>・統計的な推測の手法を理解し、推定や仮説検定に活用できる。</p>
		第1節 点と直線	3 直線の方程式	4 2直線の関係	◎	◎	○	
		第2節 円	5 円の方程式	6 円と直線	◎	◎	○	
		第3節 軌跡と領域	8 軌跡と方程式	9 不等式の表す領域	○	◎	◎	
	5	第4章 三角関数 第1節 三角関数	1 角の拡張	2 三角関数	◎	◎	○	
		中間考査(5/14～5/17)		3 三角関数のグラフ	◎	◎	○	
		第2節 加法定理	4 三角関数の性質	5 三角関数の方程式、不等式	◎	◎	○	
		7 加法定理の応用			○	◎	◎	
	6	第5章 指数関数と対数関数	1 指数の拡張		○	◎	◎	
		第1節 指数関数	2 指数関数		◎	◎	○	
		期末考査(6/26～7/2)			◎	◎	○	
		第2節 対数関数	3 対数とその性質	4 対数関数	◎	◎	○	
7	5 常用対数			○	◎	◎		
	夏季休業日(7/20～8/25)							
	第6章 微分法と積分法	1 微分係数	2 導関数とその計算	◎	◎	○		
	第1節 微分係数と導関数	3 接線の方程式		◎	◎	○		
二 学 期	9	第2節 関数の値の変化	4 関数の増減と極大・極小		◎	◎	<p style="text-align: center;">評 価 の 観 点</p> <p style="text-align: center;">知 識 ・ 技 能</p> <p>数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。また、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。</p> <p style="text-align: center;">思 考 ・ 判 断 ・ 表 現</p> <p>数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。</p> <p style="text-align: center;">主 体的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度</p> <p>数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとして、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしている。また、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。</p> <p style="text-align: center;">評 価 方 法</p> <p>学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評価します。</p> <p style="text-align: center;">備 考</p>	
		第3節 積分法	5 関数の増減・グラフの応用	6 不定積分	○	◎		◎
		中間考査5年(10/1～10/4)			◎	◎		○
		中間考査4・6年(10/8～10/11)	7 定積分		◎	◎		○
	10	数学B 第1章 数列	1 数列と一般項	2 等差数列	◎	◎		○
		第1節 等差数列と等比数列	3 等差数列の和		◎	◎		○
		第2節 いろいろな数列	4 等比数列	5 等比数列の和	◎	◎		○
		6 和の記号Σ	7 階差数列		○	◎		◎
	11	期末考査(11/27～12/3)			◎	◎		○
		第3節 漸化式と数学的帰納法	8 いろいろな数列の和		○	◎		◎
		9 漸化式			◎	◎		○
		冬季休業日(12/21～1/7)						
三 学 期	1	10 数学的帰納法			○	◎	<p style="text-align: center;">評 価 方 法</p> <p>学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評価します。</p> <p style="text-align: center;">備 考</p>	
		第2章 統計的な推測	1 確率変数と確率分布	2 確率変数の期待値と分散	◎	◎		○
		第1節 確率分布	3 確率変数の和と積		◎	◎		○
		4 二項分布			◎	◎		○
	2	第2節 統計的な推測	5 正規分布		◎	◎		○
		6 母集団と標本	7 標本平均の分布		○	◎		◎
		学年末考査4・5年(2/21～2/28)			◎	◎		○
		8 推定			○	◎		◎
	3	9 仮説検定			○	◎		◎
		〃			○	◎		◎

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	数学	科目	数学Ⅱ 数学B 数学C	学年	5 年	類型	理科系	単位数	3 2 1	単位
----	----	----	-------------------	----	-----	----	-----	-----	-------------	----

教科書名	新編 数学Ⅱ	新編 数学B	新編 数学C	出版社名	数研出版
------	--------	--------	--------	------	------

学期	月	指 導 計 画			評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容		知	思	主	
一 学 期	4	第3章 図形と方程式	1 直線上の点	2 平面上の点	○	◎	◎	<p style="text-align: center;">授 業 の 概 要</p> <p>「数学Ⅱ」は、式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角・指数・対数関数、微分と積分について、「数学Ⅰ」で学んだ基礎・基本をもとに、より深い内容を学習していきます。</p> <p>「数学B」は、「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」より進んだ内容として、数列と統計的な推測について学習していきます。</p> <p>「数学C」は、ベクトルの概念を導入し、図形の性質を考察していきます。</p> <p>教科書レベルでは入試に対応できませんから、問題集「クリアー数学Ⅱ+B(数研出版)」を活用しつつ、模試問題なども解いていきます。</p> <p style="text-align: center;">学 習 の 到 達 目 標</p> <p>・基本的な図形の性質を理解し、問題解決に活用できる。</p> <p>・様々な関数の特徴をグラフで描いて捉えることができる。</p> <p>・微分・積分の考え方により、関数の値の変化や面積を求めることができる。</p> <p>・数列の規則性を把握できる。</p> <p>・数学的帰納法を用いて証明することができる。</p> <p>・統計的な推測の手法を理解し、推定や仮説検定に活用できる。</p> <p>・ベクトルの演算ができる。</p> <p>・ベクトルを用いて、図形の性質を考察することができる。</p> <p style="text-align: center;">評 価 の 観 点</p> <p style="text-align: center;">知 識 ・ 技 能</p> <p>数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。また、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。</p> <p style="text-align: center;">思 考 ・ 判 断 ・ 表 現</p> <p>数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。</p> <p style="text-align: center;">主 体的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度</p> <p>数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしていたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしている。また、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしていたりしている。</p> <p style="text-align: center;">評 価 方 法</p> <p>学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。</p> <p style="text-align: center;">備 考</p>
		第1節 点と直線	3 直線の方程式	4 2直線の関係	◎	◎	○	
		第2節 円	5 円の方程式	6 円と直線	◎	◎	○	
		第3節 軌跡と領域	8 軌跡と方程式	9 不等式の表す領域	○	◎	◎	
	5	第4章 三角関数 第1節 三角関数	1 角の拡張	2 三角関数	◎	◎	○	
		中間考査(5/14~5/17)		3 三角関数のグラフ	◎	◎	○	
		第2節 加法定理	4 三角関数の性質	5 三角関数の方程式、不等式	◎	◎	○	
	6	第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数	1 指数の拡張	2 指数関数	○	◎	◎	
		第2節 対数関数	3 対数とその性質	4 対数関数	◎	◎	○	
		期末考査(6/26~7/2)			◎	◎	○	
		第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数	1 微分係数	2 導関数とその計算	◎	◎	○	
	7	第2節 常用対数	5 常用対数		○	◎	◎	
第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数		1 微分係数	2 導関数とその計算	◎	◎	○		
8	夏季休業日(7/20~8/25)							
	第2節 関数の値の変化	3 接線の方程式	4 関数の増減と極大・極小	○	◎	◎		
二 学 期	9	第3節 積分法	6 不定積分	7 定積分	◎	◎	○	
		8 定積分と面積	5 関数の増減・グラフの応用		◎	◎	○	
		中間考査5年(10/1~10/4)			◎	◎	○	
		中間考査4・6年(10/8~10/11)	1 数列と一般項	2 等差数列	○	◎	◎	
	10	数学B 第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列	3 等差数列の和	4 等比数列	◎	◎	○	
		第2節 いろいろな数列	5 等比数列の和	6 和の記号Σ	◎	◎	○	
	11	第3節 漸化式と数学的帰納法	7 階差数列	8 いろいろな数列の和	◎	◎	○	
		第2章 統計的な推測 第1節 確率分布	9 漸化式		◎	◎	○	
	12	10 数学的帰納法	10 数学的帰納法		◎	◎	○	
		1 確率変数と確率分布	1 確率変数と確率分布	2 確率変数の期待値と分散	○	◎	◎	
期末考査(11/27~12/3)				◎	◎	○		
冬 季	12	3 確率変数の和と積	4 二項分布	5 正規分布	◎	◎	○	
		6 母集団と標本	7 標本平均の分布		◎	◎	○	
三 学 期	1	冬季休業日(12/21~1/7)						
		数学C 第1章 平面上のベクトル	8 推定	9 仮説検定	◎	◎	○	
		第1節 ベクトルとその演算	1 ベクトル	2 ベクトルの演算	3 ベクトルの成分	○	◎	◎
	2	第2節 ベクトルと平面図形	4 ベクトルの内積			◎	◎	○
		7 図形のベクトルによる表示	5 位置ベクトル	6 ベクトルの図形への応用		◎	◎	○
	3	第2章 空間のベクトル	1 空間の点	2 空間のベクトル	3 ベクトルの成分	○	◎	◎
学年末考査4・5年(2/21~2/28)					◎	◎	○	
4 ベクトルの内積					◎	◎	○	
		5 ベクトルの図形への応用			◎	◎	○	
		6 座標空間における図形			◎	◎	○	

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	数学	科目	数 学 C 数学研究 I 数学研究 II	学年	6 年	類型	文科系	単位数	1 2 2	単位
----	----	----	----------------------------	----	-----	----	-----	-----	-------------	----

教科書名	新編 数学C 自作教科書(数学研究 I・II)	出版社名	数研出版 宇和島南中等教育学校
------	-------------------------	------	-----------------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	知	思	主	
一 学 期	4	数学C 第1章 平面上のベクトル	1 ベクトル	○	◎	◎	授 業 の 概 要 「数学C」では、ベクトルについて学習します。教科書傍用問題集「クリアー数学C」を活用しつつ、模試問題なども解いていきます。「数学研究 I・II」では、数学 I、数学 II、数学 A、数学 B、数学 C の範囲を系統的に学習します。大学入学共通テスト、国公立大学2次試験レベルの問題を解きます。精選された問題を通して、考える力、応用力を身に付けていきます。
		第1節 ベクトルとその演算	2 ベクトルの演算 3 ベクトルの成分	◎	◎	○	
	5	第2節 ベクトルと平面図形	4 ベクトルの内積	◎	◎	○	
		5 位置ベクトル	6 ベクトルの図形への応用 7 図形のベクトルによる表示	◎	◎	○	
	6	中間考査(5/14~5/17)	6 ベクトルの図形への応用	◎	◎	○	
		第2章 空間のベクトル	7 図形のベクトルによる表示	◎	◎	○	
		1 空間の点 2 空間のベクトル 3 ベクトルの成分	4 ベクトルの内積	◎	◎	○	
7	5 ベクトルの図形への応用	6 座標空間における図形	◎	◎	○		
	6 演習問題	7 演習問題	◎	○	◎		
夏 季	8	期末考査(6/26~7/2)		◎	◎	◎	・大学入学共通テスト、国公立大学2次試験レベルの問題を解くことができる。
	9	数学研究 I・II 問題演習	1 数と式 2 図形と計量 3 集合と命題 4 2次関数	◎	◎	○	
二 学 期	10	夏季休業日(7/20~8/25)					
	9	問題演習	5 場合の数と確率	◎	◎	○	評 価 の 観 点 知識・技能
		6 図形の性質 7 データの分析	8 式と証明	◎	◎	○	
	10	9 複素数と方程式	10 図形と方程式	◎	◎	○	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。また、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
		11	11 三角関数	12 指数関数と対数関数	◎	◎	○
	11	12 微分法と積分法	13 微分法と積分法	◎	◎	○	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。
		12	14 確率分布と統計的な推測	15 数列	◎	◎	○
	冬 季	12	16 ベクトル	◎	◎	○	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしていたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしている。また、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしていたりしている。
		1	期末考査(11/27~12/3)		◎	◎	
	三 学 期	2	問題演習	総合問題演習	◎	○	◎
3		問題演習	総合問題演習	◎	○	◎	備 考
3		問題演習	総合問題演習	◎	○	◎	
		問題演習	総合問題演習	◎	○	◎	
		問題演習	総合問題演習	◎	○	◎	
		問題演習	総合問題演習	◎	○	◎	
		家庭学習		○	○	○	
				○	○	○	
				○	○	○	

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程用)

教科	数学	科目	数 学 Ⅲ 数 学 C 数学研究Ⅱ	学年	6 年	類型	理科系	単位数	3 1 2	単位
----	----	----	-------------------------	----	-----	----	-----	-----	-------------	----

教科書名	新編 数学Ⅲ 新編 数学C 自作教科書(数学研究Ⅱ)	出版社名	数研出版 宇和島南中等教育学校
------	----------------------------	------	-----------------

学期	月	指 導 計 画		評価の観点			授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	知	思	主	
一 学 期	4	数学C 第3章 複素数平面	1 複素数平面 2 複素数の極形式 3 ド・モアブルの定理 4 複素数と図形	○	◎	◎	<p style="text-align: center;">授 業 の 概 要</p> <p>「数学Ⅲ」では、これまでの知識を統合しながら、関数、極限、微分法、積分法、積分法、積分法について学びます。「数学C」では、複素数平面、式と曲線について学びます。教科書傍用問題集「クリアー」を使用しながら、学力定着を図ります。</p> <p>「数学研究Ⅱ」では、大学入学共通テスト、国立大学2次試験レベルの問題を解き、考える力、応用力を身に付けていきます。</p> <p style="text-align: center;">学 習 の 到 達 目 標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分数関数や無理関数、逆関数や合成関数について理解し、それらを求めることができる。 ・数列の極限、関数の極限について理解し、極限を求める方法を考察することができる。 ・様々な関数の導関数を求めたり、関数の値の増減、極値、グラフの凹凸などを調べグラフの概形を描くことができる。 ・積分法についての理解を深め、面積や体積及び曲線の長さなどの事象の考察に活用することができる。 ・複素数平面や2次曲線についての基本的な性質を理解し、それらを事象の考察に活用することができる。 ・数学ⅠAⅡBCの学習内容について相互に関連付けながら理解を深め、入試レベルの問題を解くことができる。
		第4章 式と曲線 第1節 2次曲線 第2節 媒介変数表示と極座標	1 放物線 2 楕円 3 双曲線 4 2次曲線の平行移動 5 2次曲線と直線 6 曲線の媒介変数表示 7 極座標と極方程式	◎	◎	○	
	5	中間考査(5/14～5/17)		◎	◎		
	6	数学Ⅲ 第1章 関数 第2章 極限 第1節 数列の極限 第2節 関数の極限	1 分数関数 2 無理関数 3 逆関数と合成関数 1 数列の極限 2 無限等比数列 3 無限級数 4 関数の極限(1) 5 関数の極限(2) 6 三角関数と極限 7 関数の連続性	◎	◎	○	
		期末考査(6/26～7/2)		◎	◎		
		7	第3章 微分法 第1節 導関数 第2節 いろいろな関数の導関数	1 微分係数と導関数 2 導関数の計算 3 いろいろな関数の導関数 4 第n次導関数 5 曲線の方程式と導関数	◎	◎	
	8	夏季休業日(7/20～8/25)					
二 学 期	9	第4章 微分法的应用 第1節 導関数の应用 第2節 いろいろな応用	1 接線の方程式 2 平均値の定理 3 関数の値の変化 4 関数のグラフ 5 方程式、不等式への応用 6 速度と加速度 7 近似式	◎	◎	○	<p style="text-align: center;">評 価 の 観 点</p> <p style="text-align: center;">知 識 ・ 技 能</p> <p>数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。また、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。</p> <p style="text-align: center;">思 考 ・ 判 断 ・ 表 現</p> <p>数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。</p> <p style="text-align: center;">主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度</p> <p>数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしている。また、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。</p> <p style="text-align: center;">評 価 方 法</p> <p>学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評価します。</p> <p style="text-align: center;">備 考</p>
		第5章 積分法とその応用 第1節 不定積分 第2節 定積分	1 不定積分とその基本性質 2 置換積分法と部分積分法 3 いろいろな関数の不定積分 4 定積分とその基本性質 5 置換積分法と部分積分法 6 定積分のいろいろな問題	◎	◎	○	
	10	中間考査4・6年(10/8～10/11) 第3節 積分法的应用	7 面積 8 体積 9 道のり 10 曲線の長さ	◎	◎	○	
	11	問題演習	1 数と式 2 図形と計量 3 集合と命題 4 2次関数 5 場合の数と確率 6 図形の性質 7 データの分析 8 式と証明 9 複素数と方程式 10 図形と方程式 11 三角関数 12 指数関数と対数関数	◎	◎	○	
		期末考査(11/27～12/3)		◎	◎		
		12	問題演習	13 微分法と積分法 14 確率分布と統計的な推測 15 数列 16 ベクトル	◎	◎	
	1	冬季休業日(12/21～1/7)					
三 学 期	1	問題演習	総合問題演習	◎	○	◎	
		問題演習	総合問題演習	◎	○	◎	
	2	問題演習	総合問題演習	◎	○	◎	
3	家庭学習		○	○	○		

